

セクシュアルマイノリティ(性的少数者)の人権

誰もが「自分らしく」 生きられる社会へ

問い合わせ 人権推進課 ☎38-2055

皆さんはこれまでにセクシュアルマイノリティの人に出会ったことがありますか？ 多くの人が「いいえ」と答えるのではないのでしょうか。しかし、それは出会ったことがないのではなく、気づかなかっただけなのかもしれません。セクシュアルマイノリティは13人に1人程度いるというデータがあります。※
なかなか理解が進まない社会の中で、悩みや生きづらさを感じている当事者は少なくありません。学校・職場・地域などあらゆる場において、誰もが自分らしく生き生きと暮らせる社会を目指して、セクシュアルマイノリティの人権について考えていきます。

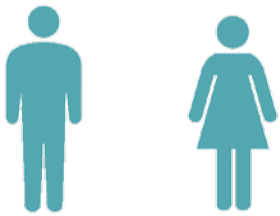
※電通ダイバーシティラボ「LGBT調査2015」

性のあり方は人それぞれ

人の性別は？「男」と「女」。こう答える人が大半でしょう。しかし、人の性は、このように2つに分けられるものではなく、色々な視点から見ると、もっと多様なものなのです。
ここでは4つの要素で、考えてみましょう。

◆ 身体の性

生まれながらの身体の性



◆ 心の性(性自認)

自分自身の性別をどう認識しているか



◆ 好きになる相手の性(性的指向)

どのような性別の人を好きになるか
恋愛対象がどうあるのか



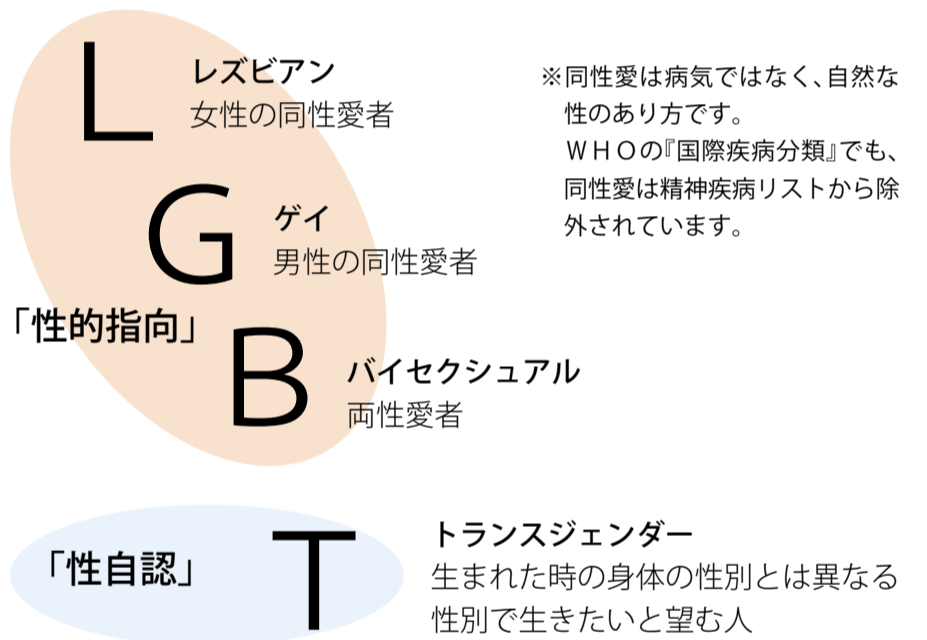
◆ 表現したい性(性表現)

服装や立ち振る舞いなど自分の性をどう表現するか

※これらの要素のさまざまな組み合わせによって、人のセクシュアリティ(性のあり方)は成り立っています。そのため、こうであるはずと思いつまらずに一人一人に向き合うことが大切です。

LGBTって何だろう？

レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字を取ったもので、セクシュアルマイノリティの総称として使われます。LGBT以外にも、性的指向や性自認がはっきりしていないクエスチョニングや、性別を男女のどちらともとらえていないXジェンダーなどがあります。



性同一性障害(GID/Gender Identity Disorder)とは？

トランスジェンダーの中で、身体的性別に持続的な違和感を持ち、心理的・社会生活上支障がある状態を指す医学的な疾患名です。日本では、身体的治療を望む場合、性同一性障害の診断を取る必要があります。しかし、全てのトランスジェンダーが治療を望むわけではありません。

こんなことに困ってました

誰もが生きやすいまちづくりを進めるために、市内在住・在勤・在学・市内の学校を卒業した当事者やその家族を対象にアンケートを1カ月間実施し、声を集めました。

【学校生活において悩んでいたこと】

- ◆教科書では男女のカップルが当たり前。自分が異常なのかと悩んだり、病気かと思ふさぎこんだ。高校のころ携帯電話が普及して、ネットでセクシュアルマイノリティのことを知り、すこく心強かった。(20代・性自認は女性)
- ◆なんとなく学校に行きたくない日が多々あった。修学旅行の大浴場がいやだった。(20代・バイセクシュアル)
- ◆中学の時は、男女に別れた文化についていけず信頼できる友人がいなかった。高校3年生になると周囲が化粧をしたり女性らしくなっていくのに合わせないといけないと思ひ、ついていくのに必死だった。いやだったけど女らしくしないといけないと思っていた。(30代・性自認は男でも女でもない)

【職場で困っていること】

- ◆当時同性と付き合っていることを上司にバラされ、心身に影響が出た。その後も会社が恐怖の対象になっている。(30代・性自認は男でも女でもない)
- ◆異性愛者にはある制度が、同性愛者にはないことがほとんど。介護休暇や配偶者手当もない。(20代・性自認は女性)

【社会参加する上で困っていること】

- ◆いつも嘘をついて暮らしていることがしんどい。親しくなればなるほど嘘をつく罪悪感が増しカミングアウト※したくなるが、うまくいかなかったり、受け流されてしまうことも多く孤独感が強くなる。(30代・性自認は男でも女でもない)
 - ◆親にも結婚のことを言われるとつらい。幸せのかたちは人それぞれのはずなのに、固定観念にとらわれている。(20代・性自認は女性)
 - ◆セクシュアルマイノリティの認知が不十分(20代・バイセクシュアル)
- ※カミングアウト: 秘密にしていた自分のセクシュアリティを誰かに伝えること